

ラーニング・サポーター ♪ 3月のつづやき -JWUラーニング・コモンズさくらより-

図書館2階 JWUラーニング・コモンズさくら(以下「さくら」と略)では、学科・専攻推薦を受けたラーニング・サポーター(本学大学院生)が学修相談を受け付けます。学修相談以外にもミニ講座の開催や「さくら」の活動支援をしながら、感じたこと、思ったことを「つづやき」、本学学生の皆さんに学修相談に訪れてもらいたいと思っています。ラーニング・サポーターは「さくら」で皆さんをお待ちしています！

<3月のつづやき♪INDEX>

p.1 絵画という窓-国立西洋美術館 @K.S.(日本文学専攻博士課程後期3年) 3月23日 tweet!

p.1 気になる木 @T.K.(相関文化論専攻博士課程後期3年) 3月18日 tweet!

つづやき1 ♪ 絵画という窓—国立西洋美術館

駅のホームで1枚のポスターに目が留まったのは、昨年の11月頃のことだったでしょうか。

「オルセー美術館所蔵 印象派 室内をめぐる物語」

学内での学会発表を控えた時期でしたから、落ち着いたら行こうと悠長に構えていました。会期が迫っていることに気付いたのは今年2月に入ってから。山積みの課題もそっこのけで、慌てて上野の国立西洋美術館に向かいました。

数々の絵画に圧倒されましたが、とりわけ惹きつけられたのは「室内装飾」に着目した第三の部屋。画家たちは戸外の自然や光を室内に招き入れようと、装飾としての絵画に打ち込んだといいます。室内模型も展示され、部屋の内装に絵画が調和する様子が示されていました。もちろん、そこには画家を巡る経済的な問題も関係していたようですが、芸術が人々の日常に溶け込んでいる様子に感動を覚えました。

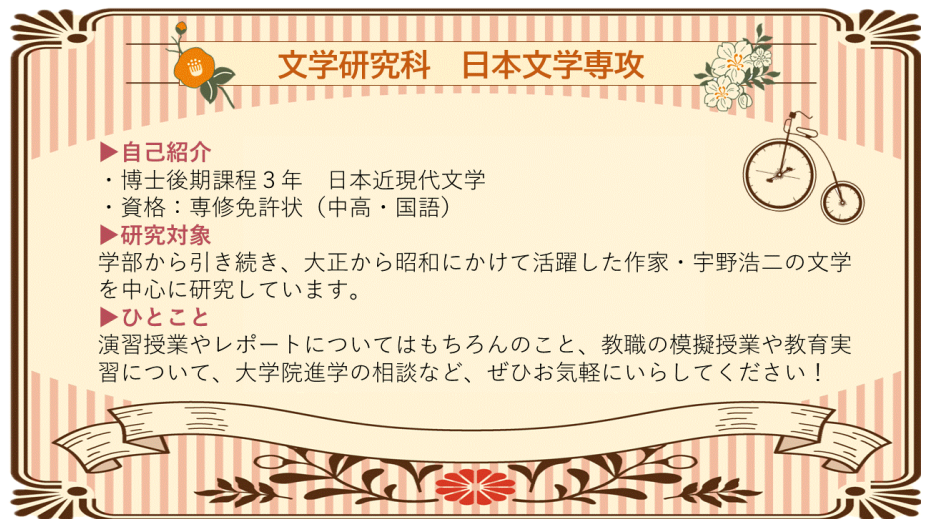
文学に向き合っていると、時おり思うことがあります。小説を読み換えた先に一体何が待っているのだろうと。文学研究が実学と呼ばれる分野と異なるのは、新たな解釈の提示が直接的に社会の利益に結びつかないことです。学問の向上という点では大きな意味がありますし、文学を利益と結び付けること自体を邪道とする見方もあるでしょう。けれど、文学に向き合う瞬間にさえ私たちは生活しています。日常との接点をどこかで感じたいと思うのです。

室内装飾に関する展示は、芸術が人々の日常生活の支えになっていることを改めて教えてくれました。日常生活に自然な形で溶け込むのが芸術であるならば、その研究は現代を生きる私たちを捉えることに等しいと言えます。小説を新たに解釈することもまた今を生きる私たち自身に跳ね返ってくるものなのかもしれません。絵画という世界が一つの窓となって、新たな空気に満たされていくのを感じた2月のとある1日でした。

さて、3月はどんな世界を覗いてみましょうか。来月のつづやきで春らしい発見をお伝えできたらと思います。

つづやき1 ♪ 気になる木

皆様は、記念の木を植えたことはありますか?「〇回生卒業記念」と書いてあるような、あれです。私は高校生の時に、学年の木として桜を植えました。あれは今、どのくらいの大きさになっているのでしょうか。自分が直接植えたわけでもないのに、ふと気になりました。



文学研究科 日本文学専攻

▶自己紹介
・博士後期課程3年 日本近現代文学
・資格:専修免許状(中高・国語)

▶研究対象
学部から引き続き、大正から昭和にかけて活躍した作家・宇野浩二の文学を中心に研究しています。

▶ひとこと
演習授業やレポートについてはもちろんのこと、教職の模擬授業や教育実習について、大学院進学との相談など、ぜひお気軽にいらしてください!

何かの記念に木や草花を植えるという行為は、既に『万葉集』所収の和歌に詠まれているそうです。各地に歴史上の有名人物による植樹伝説があり、不明な場合も御神木などとして大切にされてきた巨木が多くあります。大きな木を燃料として使うのではなく、後世へ守り伝えていくという感性が素敵ですよ。

明治以降は近代的な国家体制の整備と共に、植樹に関する書籍が多数出版されました。好意的な報道の影響もあり、日本では後世に向けて大切に育てていく「命の記念碑」として木が選ばれ、記念事業や追悼、都市開発の一環として植樹文化が形成されたそうです。

本学にも、卒業生の方々による記念樹があります。特に目を惹くのが、泉山館と八十年館の前にある大きなクスノキではないでしょうか。正門に入って正面左奥に、豊かな葉が茂っている様子がよく見えます。樹齢 100 年を超えるクスノキは、文京区の保護樹木になっていましたが、新キャンパスへの工事に伴い伐採される予定でした。しかし、有志の方々が署名活動を行ったことで保存が決まり、2019 年に現在地へ移植されたそうです。

100 年以上の歳月を経て、キャンパスは大きく姿を変えてきました。でも、クスノキはずっと学内を見守ってくれていたと思うと、少し不思議な気持ちになります。私たちの目に映るのは成長した巨木ですが、歴代の卒業生や学校関係者の方々の記憶に残るクスノキは、また違った姿を見せていたことでしょう。普段の学生生活では何気なく通り過ぎていますが、ふとした時に思い出すのは草木や自然の姿なのかもしれません。

こうして、気になる木がまた 1 本増えました。今度はクスノキのそばにあるベンチで、ご飯を食べてみようかな。そんなことを思うのは、啓蟄の候だからなのでしょう。

参考文献

岡本貴久子 2016『記念植樹と日本近代—林学者本田静六の思想と事績』思文閣出版。

日本女子大学のクスノキを守る会ホームページ「日本女子大学のクスノキを守ろう！」

URL: <https://jwu-kusunoki.amebaownd.com/>

人間社会研究科 相関文化論専攻 博士課程後期3年

研究分野 文化人類学、民俗学
日本におけるお祭りの社会的役割について

保有資格 博物館学芸員

サポート例 履修や研究の進め方、参考文献の集め方、
レポートや研究計画書の書き方、
フィールドワークの進め方、学芸員資格について

小さなことでも不安をサポートします！ お気軽にお声がけください。



ラーニング・サポーターのつぶやき (2026年3月)
ホームページ https://lib.jwu.ac.jp/lib/lc_ls.html
編集: JWU ラーニング・コモンズ さくら